

車載組込みシステムフォーラム 2024

主催：車載組込みシステムフォーラム（ASIF）
共催：名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所
後援：一般社団法人組込みシステム技術協会 中部支部
組込みシステム産業振興機構
NPO法人TOPPERSプロジェクト
公益社団法人自動車技術会

車載組込みシステムフォーラム（ASIF：Automotive Embedded System Industry Forum）は、東海地区の車載組込みソフトウェア産業を発展させることを目的として、2008年4月1日に設立されました。勉強会、スキルアップセミナー、応用技術セミナーなど、人材や企業の育成のための活動を実施しています。今般、広く組込みシステムに関連する方々を対象として、車載組込みシステム技術に関する最新動向などの情報共有と、関係企業等の交流を目的としたフォーラムを開催します。

日時

2024年1月30日（火）
10：00～16：40

開催方法

会場開催（事前申込制・先着順）

オンライン配信はありません 定員240名

ナディアパーク デザインセンタービル3階
デザインホール

名古屋市中区栄三丁目18番1号

- 交通案内・名古屋市地下鉄名城線「矢場町」駅 5・6番出口 徒歩5分
・名古屋市地下鉄東山線「栄」駅 7・8番出口 徒歩7分
- URL：<https://www.nipc.or.jp/designhall/access/index.html>



参加費

ASIF会員・

名古屋大学 未来社会創造機構
モビリティ社会研究所 所属の方
無料

後援団体会員

2,500円（消費税込）

非会員

5,000円（消費税込）

参加費は、当日現金でお支払いください。

申込方法

下記の申込フォームからお申し込みください。

<https://www.secure-cloud.jp/sf/1636007691fWkOQZVN>

申込期限：2024年1月23日（火）

申込後、登録いただいたメールアドレスへ自動返信で受付票が送付されますので、ご確認ください。
また、会場参加にあたっては、コロナウイルス等感染症予防にご協力ください。

交流会

17：00～19：00

お気軽にご参加ください
定員：50名 先着順

会場：FLOW lounge
（名古屋市中区栄三丁目20-27）

参加費：会員・非会員共に5,000円（消費税込）当日現金でお支払いください

車載組込みシステムフォーラム（ASIF）
<http://www.as-if.jp>



プログラム

ASIF活動紹介

10:00-10:40 「車載組込みシステム開発の現状とASIFの活動」

車載組込みシステムフォーラム会長
名古屋大学 大学院情報学研究科
附属組込みシステム研究センター長 教授

高田 広章

概要：車載組込みシステム業界における開発の現状に関する話題提供とASIFの活動状況紹介

基調講演

10:45-11:45 「自動運転の現状と社会実装に向けての課題」

名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所
特任教授

二宮 芳樹 氏

概要：自動運転は2025年の国の目標とするサービスカーの本格的な社会実装が目前となっている。本講演では自動運転の現状を概観し、さらに技術課題を中心に、社会実装に向けての現状の課題を整理し、安全性検証、インフラ活用などの解決のための方策についての議論をしたい。

専門セミナー 1

13:15-14:15 「中国EV市場の動向と車載システムへの影響」

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター シニアマネジャー

程塚 正史 氏

概要：世界に先駆けてEV化を進めた中国では、量的な拡大だけでなく質的な変化が進んでいる。特に新興勢を中心に車載コンテンツの高度化・多様化が起きており、今後、グローバルにその潮流が広まる可能性もある。今回は、中国のEV市場やその周辺状況を概観したうえで、中国市場による車載システムへの影響について考える。

専門セミナー 2

14:20-15:20 「Introduction of Snapdragon Digital Chassis」

クアルコム 車載事業本部 シニアダイレクター

松井 俊也 氏

概要：自動車は、今後、コネクテッド・インテリジェント・エッジとなり、それを具現化するプラットフォームとして、Qualcommは、Snapdragon Digital Chassisプラットフォームを提案。21世紀以降のクルマを再定義するシステムソリューションを紹介します。

専門セミナー 3

15:40-16:40 「NICTの大規模言語モデルとその周辺」

国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT） フェロー

鳥澤 健太郎 氏

概要：これまでNICTで試作した、3,110億パラメータのものも含む、一連の大規模言語モデルの概要をデモを交えつつ述べ、大規模言語モデルのもたらすさまざまなチャンスやリスク、さらにはそうしたチャンスやリスクに対応するためにNICTで開発している大規模言語モデル周辺の技術についても述べたい。

ASIF

検索